

「自然と調和するテクノロジーの発展」を追求 オホーツク地域の雄大な環境を生かし、

2022年4月、北見工業大学は進化を遂げます。小樽商科大学と帯広畜産大学と経営統合し、三大学連携の教育を実施します。工学と商学と農学が連動し、有益な社会イノベーションを生む展開が期待されます。

本学が単科大学として追求する工学は自然科学を基礎としています。たとえば壊れない橋をいかにつくるかを多様な視点から考えるなど、自然現象を多角的に見つめる姿勢が重要と言えます。



「環境・エネルギー研究推進センター」「冬季スポーツ科学研究推進センター」「オホーツク農林水産工学連携研究推進センター」「地域と歩む防災研究センター」と充実した研究センターもそろそろ。

「の発展」に力点を置く本学は、緑豊かで、海に面するオホーツク地域全体をキャンパスとしています。一例は「オホーツク地域と環境」という授業で、新入生は流水を間近で観察するなど、複数の体験型グループワークを通し、工学の視点から地域の魅力と課題を発見します。

幅広い知識こそ 応用力につながる

本学は入学時に専門を絞ってはいません。入り口の学科は二つだけ。「壊れない橋」を例に挙げれば、材料や構造、耐震性や建築方法など、あらゆる面で最適解を見つける必要があります。専門分野の確かな理解を基盤としながらも、工学の幅広い知識こそ応用力や課題解決力につながるかと考え、1年次は全員が多様な共通科目で、工学力の基礎を固めます。たとえば今後の社会は「AI(人工知能)」の活用が不可欠で、どの学生に

も一定の理解を得ていきます。
「個別担任制」を採用
就職支援も手厚く実施

2年次から地球環境工学科はエネルギー総合工学、環境防災工学、先端材料物質工学、地域マネジメント工学の4コース、地域未来デザイン工学科は機械知能・生体工学、情報デザイン・コミュニケーション工学、社会インフラ工学、バイオ食品工学、地域マネジメント工学の5コースに分かれます。工学の基礎力と専門性を高め、卒業後の道を具体的に描いていきます。本学は教員が1学年あたり5人程度を見守る「個別担任制」を採用しています。日々の学びに加え、就職の相談にも親身に応じる点は特長でしょう。「キャリアアップ支援センター」の手厚さもあり、就職率は毎年100%※、近くに達しています。2021年度には「総合選抜型入試」を導入。「コース確定



鈴木聡一郎 学長

すずき・そういちろう／1984年、北海道大工学部金属工学科卒業、1999年、東北大学院情報科学研究科博士後期課程修了。アシックスのスポーツ工学研究所に勤務後、1993年から北見工業大学で指導。2018年4月から現職。工学博士。専門はロボット工学とスポーツ工学。

「第一次産業振興」「冬季スポーツ」の3柱を設け、得意分野や特定の分野に強い興味を持つ人材を受け入れます。工学の可能性を信じる学生が「自然と調和するテクノロジーの発展」を追求する姿ほど胸を打つものはありません。

※2020年3月卒就職者240名、就職希望者240名